

歴史遺産

芸術学科 歴史遺産コース

TR テキストレポート科目 TW テキスト作品科目 TX テキスト特別科目 S スクーリング科目 GS 芸術学舎科目 WS Webスクーリング科目 必 必修科目 選必 選択必修科目 選 選択科目

※下記で紹介する科目は2017年度開講予定のものです。一部、変更になる場合があります。

歴史遺産コース専門教育科目

STEP①

STEP②

歴史遺産学を考えていくための基礎的な専門知識を身につける。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
1年次～						
歴史遺産基礎講義 1	京都学入門	TR	必	2	有	1200年を超える歴史を積み重ねてきた「京都」。その伝統と創造が繰り返されてきた歳月をいかに学ぶべきか。テキスト「京都学」を通じて、京都を学ぶための基礎を構築することを目指す。
歴史遺産基礎講義 2	京都学	TR	必	2	有	歴史の舞台としてその中心地であった「京都」は、時代のおおきな変革の中で、つねに変貌し再生してきた。そのあとをたどることで、政治・経済・文化の歴史の変遷を学び、歴史都市「京都」のより深い理解を目指す。
歴史遺産学研修 1	平安宮跡/東寺	S	選	1	「京都」は、古代から近代までの歴史が重層となった地である。そうした歴史の現場を京都各地にフィールドワークし、その空間のもつ現場の体感を大切に、ゆたかな歴史認識を養うことを目指す。	
歴史遺産学研修 2	清水寺参詣道	S	選	1		
歴史遺産学研修 3	江戸時代の京都	S	選	1		
歴史遺産学研修 4	茶の湯と文化遺産	S	選	1		
歴史遺産学研修 5	大原	S	選	1		
歴史遺産学研修 6	京都の祭	S	選	1		
歴史遺産 I-1	鎌倉文化論	S	選	2		鎌倉時代を中心とする中世の歴史を、歴史的な「場」としての鎌倉とその周辺地域での実地研修を通して学ぶ。また、豊富に伝来する貴重な中世古文書を通して、京都と並ぶ古都鎌倉の歴史的意義や鎌倉時代の歴史的理解を深める。
歴史遺産 I-2	上方文化論	S	選	2		近世の大坂を中心とする上方では、商業の著しい発展とともに独特の文化を形成してきた。近世上方文化の豊かな世界への歴史的理解を深める。
歴史遺産 I-3	江戸文化論	S	選	2		江戸は、いまでもなく近世の歴史の中心地であり、文化的にも京都とは異なる特色あるものを生み出した。江戸時代260年をかけて平和の中に構築された人々の生活や文化の豊かな諸相への歴史的理解を深める。
歴史遺産学 I-1	宗教文化史 1	TR	選	2	有	日本の歴史文化に大きな影響をあたえた神道、仏教、神仏習合などの宗教史の概要を理解し、そこから生まれたさまざまな文化についても歴史的理解を深める。
歴史遺産学 I-2	宗教文化史 2	TR	選	2	有	日本の宗教文化のなかで、とくに仏教の歴史を基礎史料を通して概観することで、仏教史の実相に触れるとともに、仏教から生みだされた文化の諸相を考究する。
歴史遺産学 I-3	考古学研究	TR	選	2	有	発掘された遺跡や遺物をさまざまな角度から分析し、文字史料とは異なる切り口から歴史を復元する方法や日本の文化がどのように変化してきたかを理解する。
歴史遺産学 I-4	民俗学研究	TR	選	2	有	民俗学の研究範囲は広い。生産方法から祭礼や生活習慣まで、対象も有形・無形とバラエティーに富んでいる。これらの研究を通して日本の文化の豊かさを学ぶ。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
歴史遺産学 I-5	東北学	TR	選	2	有	東北の成り立ちや東北固有の文化を、歴史や民俗学の視点を通して理解することを目指す。それは東北を理解するばかりではなく、日本列島の文化を見直すことにもつながると考えている。
歴史遺産 II-1	文化遺産学基礎	S	必	2		文化財や世界遺産(文化遺産)の学習を始めるにあたり、基礎的な事項、つまり法律や文化財の種類などについて学ぶ。同時に文化財保護に関する最新のトピックスも紹介する。
歴史遺産 II-2	文化遺産学特論	S	選	2		文化財を形づくっている材料と、その修復、保存の方法について学習する。とくに本講義では、木材、漆、膠など、日本の文化財群を形成するなかで、もっとも基礎的な材料が使われている文化財について学ぶ。
歴史遺産 II-4	日本の世界遺産	S	選	2		世界遺産に登録されている文化遺産を実際にたずね、現地踏査を通して、その意義や地元に与えた影響、将来にわたって維持してゆくための課題などを取り上げる。
歴史遺産学 II-1	文化財保存修復概論	TR	必	2	有	日本の文化財を保存・活用するためには、それらがどんな材料からできているのか、どのような技術でできているのか、そして修理するための技術にはどのようなものがあるのかを知っておく必要がある。とくに損傷しやすい紙、絹、漆、木材などで作られた文化財を中心に、基本的な事柄を学習する。
歴史遺産学 II-2	災害と文化財	TR	選	2	有	自然災害が多発する昨今、文化財も被災する。動産文化財の防災対策について、テキストを通して学習する。この学習が地域で文化財を守る人材の育成につながることを望んでいる。
歴史遺産学 II-3	世界遺産学	TR	選	2	有	世界遺産とは何かを学ぶ。世界遺産に登録された日本の文化遺産について総合的に理解し、それらがかかえる課題について考える。とくにまちづくりとの関わりも踏まえつつ、地域社会における世界遺産の意味や保存、維持の方法について理解することを目指す。
歴史遺産 III-1	美術資料調査方法論	S	歴史遺産 III-1~III-2 より 選必 (1単位以上)	1		絵画や彫刻という美術資料について基本的な歴史を概観したうえで、実際に卷子(巻もの)や掛け軸に仕立てられた資料や仏像の取り扱いについてを実習で学ぶ。また調書のとり方、写真撮影の方法なども実際の美術資料を使ってグループで取り組み、調査の基礎を体験的に学ぶ。
歴史遺産 III-2	民俗資料調査方法論	S		1		民俗学にかかわる多様な資料の調査方法を学ぶ。民俗資料の意義を知り、有形民俗資料の調書のとり方や拓本のとり方、無形民俗文化財に関する聞き取り調査の方法や調書のまとめ方などを、実地研修を通して理解する。
歴史遺産 III-3	史料講読・古代~中世	S	歴史遺産 III-3~III-4 より 選必 (1単位以上)	1		歴史を研究するうえで不可欠なのが、史料を読み解く力。この授業では、古代から近代の史料を実際に読み解いて読解力を養うとともに、その史料の持つ意味を考えて、自ら考察する力を養う。
歴史遺産 III-4	史料講読・近世~近代	S		1		
歴史遺産 III-5	古文書研究	S	選	2		「くずし字用例辞典」のひき方をはじめ、くずし字の読み解き方、意味のとり方など、古文書を読む基礎的な力を養う。江戸時代の人々が残した本物の古文書に触れる実習もおこなう。また、古文書の具体的な調査方法、取り扱い方法なども学ぶ。

STEP③

研究テーマを具体的に見だし、その探求をはじめると。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
2年次						
論文研究基礎		S	選	1		「論文研究」の前段階にあたる科目。論文をどう客観的に読み、問題の所在を見出ししていくかを学ぶ。グループに分かれて実際に論文を読み、グループ内討議を経て問題を抽出していく。こうした実践を経ることによって先行研究に対する客観的批判力を養う。
3年次						
歴史遺産 II-3	保存修復特論	S	選	2		紙の文化財—装潢文化財(東洋書画、古文書等)の保存修復について深く理解することを目指す。具体的には、装潢文化財の構造や損傷について実物を調査、記録する実習を行い、修復で使われる材料(和紙が中心)について学習する。簡単な修復作業も体験する。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
論文研究 I-1		S	必	1		「卒業研究」の前段階として、研究論文(あるいは研究報告書など)とは何かを理解し、テーマの定め方、資料の収集法、論の構成や書き方、テーマに即した研究成果の報告法を学ぶ。さらに自ら選んだテーマに関する研究の進捗状況をゼミ形式で発表し、指導教員および受講生と討議する。
論文研究 I-2		TX	必	1		「論文研究 I-1」のゼミの際に与えられた課題を踏まえてレポートを作成し、講評を受ける。
論文研究 II-1		S	必	1		「論文研究 I-1」「論文研究 I-2」での指導・講評を踏まえ、各自の研究の進捗状況をゼミ形式で発表し、指導教員および受講生と討議する。
論文研究 II-2		TX	必	1		「論文研究 II-1」のゼミの際に与えられた課題を踏まえてレポートを作成し、講評を受ける。

STEP④

研究成果を卒業論文にまとめる。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
4年次						
卒業研究		TX	必	8		各自の設定したテーマにもとづく研究を仕上げる科目。「論文研究I-1～2」「論文研究II-1～2」を経て形になってきた研究成果を、指導教員によるレポート添削および個別面接指導を通じて「最終成果物(卒業論文あるいは卒業研究報告書など)」という形で完成する。

芸術学科専門教育科目

芸術学科では、コースの枠を越えて自由に選択することのできる科目群があります。

※各コースの必修科目もあります。(歴必修=歴史遺産コース必修、文必修=文芸コース必修、和必修=和の伝統文化コース必修)

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
芸術学概論	S	選	2		さまざまな時代の芸術理論を参考にしながら芸術の基礎的な諸問題を概観する。
日本美術論	S	選	2		日本美術史の時代的特徴、あるいはジャンルの特徴を年代ごとに取り上げ、細部にわたる講義を行う。
西洋美術論	S	選	2		古代から近代に至るヨーロッパ美術の流れを、建築、彫刻、絵画、工芸の各ジャンルの作品を通して、体系的、かつ具体的に理解する。
アジア美術論	S	選	2		[中国] 世界でも類を見ない独特な美術世界を築き上げてきた中国美術について、中国の長い歴史と広大な大地を通して見ていく。 [朝鮮半島] 高麗時代から李朝時代までの約千年の美術史を、仏教絵画、陶磁、世俗画の分野で概観する。
仏教美術論	S	選	2		東アジア諸国に広がっている仏教美術について、その源流となる古代のインド仏教美術を中心としながら、様々な歴史的・地域的展開を概観する。
音楽文化論	S	選	2		音楽を文化社会現象としてとらえ、「音楽は素朴に聞いて楽しめばいい」という命題に潜む「畏」について理解したうえで、音楽の楽しみ方を学ぶ。
文化芸術遺産フィールドワーク 1	S	選	1		芸術学や歴史遺産の視点から、京都・滋賀の神社仏閣、博物館に伝えられる文化芸術遺産について学ぶ。 1日目に教室の対面授業によって訪問先について詳しく学び、2日目は学外研修として学んだ訪問先を実際に訪れる。
文化芸術遺産フィールドワーク 2	S	選	1		
文化芸術遺産フィールドワーク 3	S	選	1		
文化芸術遺産フィールドワーク 4	S	選	1		
地域芸術学フィールドワーク	S	選	1		尾道、沖縄など、日本各地のさまざまな芸術遺産について、地域での現地講義を行う。
歴史遺産学概論	S	選 ※歴必修	2		歴史遺産学を学ぶために大切なふたつの分野(もの(文化遺産))とくところ(歴史文化))について、歴史文化、文化財科学、保存修復などの各分野の専門教員がおこなうオムニバス講義。
京都の歴史	S	選 ※歴必修	2		[京都文化論] 日本の歴史文化を学ぶために理解しておきたい基本的なことから、京都の歴史を通して、とくに古代から近世の「文化史」という視座から学習する。より深く京都の歴史を知り、さらに日本文化の諸相への歴史的理解を目指す。

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
文化史特論	S	選 ※歴必修	2		中世史、芸能史、美術史の各研究者による自身の研究の紹介とともに、研究課題に対しどのように新しいアプローチをするのか、どのように史料を扱うのか、どのように論文として構成するのかなどを具体的に語っていただき、論文に取り組むためのさまざまな方法論を学ぶ。
史料学基礎	TR	選 ※歴必修	2	有	歴史を理解し調べる際に必要となるのは遺されてきた史・資料である。歴史的な史・資料には様々な種類があり、その特質など史料論を理解する科目。
史料講読基礎	TR	選 ※歴必修	2	有	歴史的な史料の読み方を実践的に学ぶ。活字化されている史料について、古代・中世・近世・近代と各時代のものを取り上げ、基礎・応用と段階を踏んで理解出来る科目群。
史料講読応用	TR	選	2	有	
文献資料講読	S	選	1		古文・漢文などの歴史的な史・史料について、それらを読むための初歩的な科目。漢文の訓読法や訳し方、変体仮名などの基礎を学ぶ。
日本の古典を読む	S	選	2		古典文学の傑作のテキストに基づき、その構想力の広がり学ぶ。
文章表現基礎	S	選 ※文必修	1		一般的な文章表記のルールからはじめ、授業レポートだけでなく、「論文研究」そして「卒業研究」の執筆に必要な論述のテクニック、参考文献の扱い方まで射程に入れ、段階的に複雑な文章を学習する。
日本文化の源流	TR	選	2	有	「和の伝統文化」を幅広い観点から概観して基礎知識を得る為のテキスト科目群。諸々の日本の伝統芸術の源流にある文化や思想を考察する科目、日本の伝統文化と周辺地域の文化の交流史を学ぶ科目、および和食をはじめとする日本の生活文化の背後にある思想を学ぶ科目から成る。
日本文化と東アジア	TR	選	2	有	
日本の生活文化	TR	選	2	有	
伝統芸能の諸相	S	選 ※和必修	1		日本の伝統芸能は成立した時代によって異なる特質を有しています。この科目では、雅楽や今様、田楽、能楽など多様な芸能をとりあげて、時代背景をふまえながらその表現の魅力を考察します。また諸芸能の相互の関係性についても学びます。
伝統芸能と工芸	S	選 ※和必修	1		能や歌舞伎といった伝統芸能には舞や音楽以外にも様々な芸術が関わっています。この科目では特に能面などに代表される工芸分野と伝統芸能の接点を探ります。
絵画と日本文化	S	選 ※和必修	1		絵画もまた日本の伝統文化を語る上で欠かせないものです。この科目では室町時代の禅宗と絵画、あるいは近代日本における絵画など、多角的な視点から日本の絵画文化を学びます。
詩歌と日本文化	S	選 ※和必修	1		和歌や漢詩は古代より日本の伝統芸術の中核を為すものでした。その伝統を受け継いで室町期には連歌が、江戸期には俳諧が隆盛しますが、このような詩歌文化に関して考察する科目です。
花道文化の展開	S	選 ※和必修	1		日本の代表的な伝統文化のひとつである花道は室町時代に形を整え、江戸時代を通じてその思想を発展させてきました。本科目ではその歴史と思想を概観します。
伝統文化の空間	S	選 ※和必修	1		伝統文化が行われる空間、それは伝統文化の内容と切っても切り離せないものです。本科目では茶室や庭園をはじめとする空間の観点から伝統文化の「かたち」を考察します。
室礼ともてなし	S	選 ※和必修	1		お花やお茶、お香をはじめとする室内芸道において、室礼の知識は欠かせないものです。室町時代以降整備されてきた室礼の様式と「おもてなし」の心を学ぶ科目です。
茶道文化の展開	S	選 ※和必修	1		戦国時代から今日に至るまで日本の伝統文化に大きな位置を占めてきた茶道について、歴史の流れや茶人の思想を概観する科目です。
論文研究Ⅲ	TX	選	2		「論文研究I-1～2」「論文研究II-1～2」の単位を修得後、「卒業研究」の着手までに1年以上のブランクができてしまう場合に、「卒業研究」の準備段階にあたるレポートを作成・提出し、教員からの添削・指導を受け、空白期間の学習を補う。
論文研究基礎演習	TX	選	2		論文を批判的に読むことを学ぶ。課題として与えられた芸術学、歴史遺産、伝統文化、文芸に関する論文からどれか一つを選び、批判的に論文を読むことを実践的に学習する。先行研究とどう向き合い、新たにどのような問題提起ができるのかを自ら考察する。

コースからのスクーリング開講に関するお知らせ

週末を中心とした3日間の開講のほかに、2日間で履修可能な科目が開講されます。卒業要件に必要な単位を東京で開講するスクーリングだけで修得することも可能です。ただし、京都のみ開講、東京のみ開講となる科目があるため、選択によってはその限りではありません。